



韓国の日本小説ブームはもうニュースではないが最近、韓国の知り合いが小路幸也著『モーニング』という小説を持ってきて読んでみてくれという。彼はソウル中心街に大きなビルを持ち、流通関係など手広くビジネスをやってきたが、もっと意味のあることをやりたいと出版にも乗り出した。

幅広い出版社を目指したいと、手始めに日本の小説の翻訳出版を企画し、さる人から『モーニング』を勧められたという。読んで感想を聞かせてほしいというのだ。日本の最近の作

日本小説ブームの秘密

家はあまりなじみがないが読んでみると結構、面白い。

中年世代が昔の仲間の葬式で集まったのを機に、共に過ごした自分たちの過去を回想するとい



いう一種の青春小説だ。恋、音楽、バイト、遊び、家族、お互いの秘密……

「1980年代の日本人の青春」が甘酸っぱく、ちょっぴりドラマチックに描かれているのだが、こんな作品が韓国の読者に受けるかどうか？

一方、日本の「共立国際交流

奨学財団」が韓国でやっている「日本体験企画コンテスト」の審査員として最近、応募エッセ

ー約50編を読む機会があった。中に文学モノもあって、村上春樹など現代モノへの関心が目立

つ。作品をたどるかたちで「日本体験」をしたいというのだ。

あるファンは「日本の小説の現実は今私にすぐ生々しく感じられる。私たちにも経験できそうなストーリーだ。私たちは共通した感性を持っている……」という。『モーニング』も

売れるかもしれない。

(黒田勝弘)